

令和 7 年安曇野市議会 6 月定例会

討 論 発 言 通 告 書

令和 7 年 6 月 27 日
安 曇 野 市 議 会

提出順	2	発言順	/	令和7年6月25日
				午前・午後 8 時 48 分受領

(1枚中No.1)

2025年 6月25日

(宛先) 安曇野市議会議長 松枝 功

安曇野市議会議員 白 井 泰 彦

討 論 発 言 通 告 書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和7年安曇野市議会 6月定例会 (第 回臨時会)
議案番号等	☐ 議案 ☐ 議員提出 ☐ 請願 ☒ 陳情 ☐ その他 第2号
議案名等	安曇野市の適正な土地利用に関する条例、並びに景観条例等関連条例の見直しを求める陳情書
賛成・反対の別	☒ 賛 成 ・ ☐ 反 対
討論内容 (具体的に記載してください) 安曇野市の北アルプスを背景とした田園風景や屋敷林の織りなす景観はかけがえのない宝であり、この景観における高さ制限や夜間照明の規制は広い範囲に影響を及ぼし決定的に重要である。改めて現行基準の引き下げを視野に見直し、専門家や事業者を含めた市民的議論をすることは、この景観を将来的に維持するために重要である。	

提出順	3	発言順	2	令和 7 年 6 月 25 日
				午前・午後 9 時 44 分受領

(4 枚中No. 1)

令和 7 年 6 月 25 日

(宛先) 安曇野市議会議長 松枝 功

安曇野市議会議員 増 井 裕 壽

討 論 発 言 通 告 書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 7 年安曇野市議会 6 月定例会 (第 回臨時会)
議案番号等	☐ 議案 ☐ 議員提出 ☐ 請願 ☒ 陳情 ☐ その他 第 2 号
議案名等	安曇野市の適正な土地利用に関する条例、並びに景観条例等関連条例の見直しを求める陳情書
賛成・反対の別	☒ 賛 成 ・ ☐ 反 対
討論内容 (具体的に記載してください) 本市における建築物の高さ制限については、現在、関連規定により上限が 30 メートルと定められています。しかし、景観条例が策定された初期段階 (平成 20 年頃) には、高さ 20 メートル程度とする案が検討されており、これは当時から市として「高さ 20 メートル前後が妥当である」との認識を有していたことを示しています。今後、建築物の高さ基準を見直すにあたっては、現庁舎の高さを一つの基準点として捉えるべきです。 市内の街並みに目を向けると、大多数の建物が 4 階建て以下に抑えられており、「高層建築を避けるべきだ」という意識が市民の間に自然と根付いていることがうかがえます。これは、安曇野の豊かな自然と調和した景観を守ろうとする住民の無意識の行動であり、地域の景観形成において極めて重要な要素といえます。 全国に目を向けると、軽井沢や京都のように、厳格な景観保全を行いながらも、地域経済の活性化と両立させている先進地域が存在します。安曇野においても、「高層建築は不要である」という価値観が、かえって景観という地域資源の価値を高め、持続可能な地域づくりに貢献すると確信しています。 その実現に向けては、専門的知見を有する景観アドバイザーの関与が不可欠です。景観は一部の私的所有者に帰属するものではなく、地域住民全体で共有し、次世代に引き継ぐべき公共財です。そのため、個別の開発計画に留まらず、地域全体の将来像を見据えた総合的・専門的な議論が求められます。 さらに、夜間景観への配慮も重要な課題です。たとえば、信濃大町駅周辺では、過度な照明が景観に与える悪影響が指摘されており、同様の課題が安曇野でも生じる可能性があります。こうした点に対しても、早期に適切な規制やガイドラインを整備することが必要です。景観は一度失えば回復が困難な資産です。安曇野らしい風景と暮らしを守るために、今こそ住民、行政、専門家が一体となって、将来を見据えた景観形成に取り組むべきです。	

提出順	/	発言順	3	令和 7 年 6 月 24 日
				午前・午後 1 時 49 分受領

(1 枚中No. 1)

令和 7 年 6 月 24 日

(宛先) 安曇野市議会議長 松枝 功

安曇野市議会議員 大 竹 啓 正

討 論 発 言 通 告 書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 7 年安曇野市議会 6 月定例会 (第 回臨時会)
議案番号等	☐ 議案 ☐ 議員提出 ☐ 請願 ☒ 陳情 ☐ その他 第 3 号
議案名等	選択的夫婦別姓制度の法制化を求める意見書の提出を要望する陳情
賛成・反対の別	☐ 賛 成 ・ ☒ 反 対
討論内容 (具体的に記載してください)	
*我が国の家族形態および、安定した社会基盤の崩壊に繋がる恐れがある。	
*現行制度は旧姓使用を認める一定の柔軟性を持っている。	
*意見書提出は安曇野市民全体の総意であるかのように誤解を生む。	

提出順	3	発言順	4	令和 7 年 6 月 25 日 午前 午後 9 時 44 分受領
-----	---	-----	---	-------------------------------------

(4 枚中No. 2)

令和 7 年 6 月 25 日

(宛先) 安曇野市議会議員 松枝 功

安曇野市議会議員 増 井 裕 壽

討 論 発 言 通 告 書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 7 年安曇野市議会 6 月定例会 (第 回臨時会)
議案番号等	☐ 議案 ☐ 議員提出 ☐ 請願 ☒ 陳情 ☐ その他 第 3 号
議案名等	選択的夫婦別姓制度の法制化を求める意見書の提出を要望する陳情書
賛成・反対の別	☐ 賛 成 ・ ☒ 反 対

討論内容 (具体的に記載してください)

まず、前提として確認したいのが「家族全員が同じ苗字であること」への価値観についてです。現在の日本社会において「家族で苗字はできるだけバラバラの方がよい」と考える人はほとんどいません。これは、選択的夫婦別姓を主張している方の中でも同様だと思われます。仮にこの制度が導入されたとして、同姓で結婚した夫婦がわざわざ別姓に戻す例がどれだけあるのでしょうか。家族として同じ苗字でいたいという感覚は、多くの国民に共通するものであり、守るべき価値ではないのでしょうか。確かに、現行制度では結婚の際に夫婦のどちらかが改姓しなければならない、その負担が問題視されることもあります。しかし、だからといって「家族同姓」という社会的な価値を手放してまで、制度を変える必要が本当にあるのでしょうか。結婚は人生において長い期間にわたるものであり、一時の負担を過度に重視すべきではありません。むしろ、その先に続く家族の一体感を重んじるべきではないかと考えます。

2020 年 10 月に行われた早稲田大学の研究グループと市民団体によるインターネット調査では、「選択的夫婦別姓に賛成」が 7 割という結果が発表されました。

しかし、その内容を詳しく見ると、

- 自分は別姓がよいが、他の夫婦はどちらでもよい：34.7%
- 自分は同姓がよいが、他の夫婦はどちらでもよい：35.9%
- 自分も他の夫婦も同姓であるべき：14.4%

この結果を「賛成 7 割」とするのは、設問の意図や選択肢の解釈に疑問が残ります。

一方で、2025 年 6 月に行われた NHK の電話世論調査では、

- 選択的夫婦別姓を導入すべき：25%
- 夫婦同姓を維持し、旧姓の通称使用を拡充すべき：31%
- 現行制度を維持すべき：37%

提出順	3	発言順	4	令和 7 年 6 月 25 日
			午前	午後 9 時 44 分受領

(4 枚中No. 3)

令和 7 年 6 月 25 日

(宛先) 安曇野市議会議長 松枝 功

安曇野市議会議員 増 井 裕 壽

討 論 発 言 通 告 書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 7 年安曇野市議会 6 月定例会 (第 回臨時会)
議案番号等	☐ 議案 ☐ 議員提出 ☐ 請願 ☒ 陳情 ☐ その他 第 3 号
議案名等	選択的夫婦別姓制度の法制化を求める意見書の提出を要望する陳情書
賛成・反対の別	☐ 賛 成 ・ ☒ 反 対

という結果でした。「旧姓の通称使用」も含めた選択肢を提示した上での調査では、約 7 割の人が「夫婦同姓を基本とする現状維持」を望んでいることが明らかなです。

また、同年 5 月に行われた JNN の調査では、「夏の参院選で最も重視する政策」について聞いたところ、

- 1 位 減税や物価高対策：28%
- 2 位 少子化対策や子育て支援：17%
- 3 位 景気対策：16%
- 4 位 社会保障：10%
- 5 位 政治とカネの問題：9%
- 6 位 外交・安全保障：4%
- 7 位 地域活性化：4%
- 8 位 憲法改正：1%
- ★ 9 位 選択的夫婦別姓：1%★

「選択的夫婦別姓」が最も重視される政策だと答えた人はわずか 1%。この現実を見れば、現在の国政の優先課題ではないことは明白です。

また、制度上の最大の懸念は、「子ども」の問題です。選択的夫婦別姓を選んだ場合、夫婦間で苗字が異なることになり、その子どもはどちらか一方の姓を名乗ることになります。結果として、父または母と苗字が異なる状況が生じます。物心がついた子どもが「なぜ自分の家族は苗字がバラバラなのか？」と疑問を持ち、悩む可能性は十分にあります。

実際、産経新聞が行った小中学生への調査では、

提出順	3	発言順	4	令和 7 年 6 月 25 日
				午前・午後 9 時 44 分受領

(4 枚中No. 4)

令和 7 年 6 月 25 日

(宛先) 安曇野市議会議長 松枝 功

安曇野市議会議員 増 井 裕 壽

討 論 発 言 通 告 書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 7 年安曇野市議会 6 月定例会 (第 回臨時会)
議案番号等	☐ 議案 ☐ 議員提出 ☐ 請願 ☒ 陳情 ☐ その他 第 3 号
議案名等	選択的夫婦別姓制度の法制化を求める意見書の提出を要望する陳情書
賛成・反対の別	☐ 賛 成 ・ ☒ 反 対

◇夫婦別姓で親や兄弟と苗字が異なることに「反対」：49.4%
◇「賛成」：16.4%
◇「仕方なく賛成」：18.8%
◇「よくわからない」：15.4%

と、子どもたちの約7割が「同じ苗字であることを望む」結果が出ています。これは決して無視できない声です。

賛成派は、「選択制だから強制ではない」と言います。しかし、親が別姓を選択した場合、その子どもは苗字の違いを強制的に受け入れなければなりません。これは本当に「選択」なののでしょうか？むしろ「子にとっての選択肢」は存在せず、制度によってその権利が奪われているとも言えます。

以上の点から、家族の絆を象徴する「同じ苗字」という文化的価値を、軽々しく手放すべきではありません。私たち政治家は、本当に国民の声に耳を傾け、国民が本当に望む政策を進めていくべきです。

提出順	4	発言順	5	令和 7 年 6 月 25 日
				午前・午後 9 時 55 分受領

(1 枚中No. 1)

令和 7 年 6 月 25 日

(宛先) 安曇野市議会議長 松枝 功

安曇野市議会議員 矢 澤 毅 彦

討 論 発 言 通 告 書

下記のとおり、通告します。

議会名	令和 7 年安曇野市議会 6 月定例会 (第 回臨時会)
議案番号等	☐ 議案 ☐ 議員提出 ☐ 請願 ☒ 陳情 ☐ その他 第 6 号
議案名等	児童クラブ利用において保護者の対象から祖父母を削除することを求める陳情書
賛成・反対の別	☒ 賛 成 ・ ☐ 反 対
討論内容 (具体的に記載してください)	
現行の祖父母要件は実態と乖離しており、必要な家庭への支援が届かない。 市も令和8年度からの要件緩和を予定しており、本陳情はその方針を市民の立場から後押しするもので意義がある。職員体制の整備やアンケート結果の公表も含め、制度の見直しを前向きに進めるべきである。	